

東洋紡株式会社 2021 年度第1四半期決算説明会 質疑応答要旨

日時:2021 年 8 月 5 日(木) 16:00~17:00

場所:電話会議形式

説明者:取締役兼常務執行役員 管理部門統括 大槻 弘志

本資料中の将来の業績見通し等に関する記述は、現時点における情報に基づいており、当社として保証するものではありません。実際の業績等は、さまざまな要因により異なる可能性があります。

Q:1Qの数量要因が大きい、その内訳は？

A:旧東洋紡フィルムソリューション(株)の21年1~3月期の加算、“コスモシャイン SRF”の新ライン(3号機)の本格稼働、PCR検査用試薬の販売増、スーパー繊維やエンジニアリングプラスチックの自動車関連製品の回復などが大きい。

Q:2021年度1Qのフィルム・機能材料の増益は29億円、それに対し、通期は3億円の増益に留まる見通しだが、その理由は？

A:原料高の影響が大きい。特に工業用フィルムは、売値転嫁が難しいとみている。

Q:“コスモシャイン SRF”に対して強い需要が続いているようだが、生産能力増強をする計画はないのか？

A:新ライン(3号機)の生産量を、1号機、2号機並みにすることで量を増やす、かつ、OEM生産も加えて量を増やしていく計画。生産設備を増やすかどうかは現時点では検討課題。

Q:モビリティが2020年度4Qに対し2021年度1Qは減益になっているが、その原因は？

A:エンジニアリングプラスチックは、需要が強く比較的スプレッドを維持できたが、エアバッグ用基布は、原料価格の高騰に売値転嫁が追い付かないなどの理由で不調であったため。

Q:PCR検査関連製品の今後の見通しは？

A:ワクチンの普及、感染者数の増加、厚労省の見通しなど、見通しを立てにくい状況にあるが、2Q辺りまではPCR検査需要は継続するとみている。

Q:LIBSの市場は活況と思うが、環境ソリューション装置の受注が減少しているとのこと。その理由と今後の見通しは？

A:環境ソリューション装置(VOC処理装置)は、2020年度、コロナウイルス禍の影響で受注が減少した影響を受けている。足元は受注が取れてきているので、今後は回復する見通し。

以上